

# 技術動向分析から技術開発テーマを提案する特許特化型 AI 活用ツールと企業事例

## Manus

近年、知的財産（IP）分野におけるデジタルトランスフォーメーション（知財 DX）が急速に進展しており、特に生成 AI を活用した特許分析ツールの導入が多くの企業で進んでいます。本レポートでは、「技術動向分析から自社が取り組むべき技術開発テーマを提案する」という用途に特化した主要な AI ツールをピックアップし、その機能的特徴と実際の企業における導入事例を解説します。

## 1. 主要な特許特化型 AI 活用ツール

技術動向の俯瞰から具体的な開発テーマの探索までを一気通貫で支援する代表的なツールとして、以下の3つが挙げられます。

### 1.1 Patentfield AIR（Patentfield 株式会社）

Patentfield AIR は、AI 特許総合検索・分析プラットフォーム「Patentfield」の拡張機能として提供される生成 AI モジュールです。大量の特許文献の査読・分析プロセスを大幅に効率化する機能を有しています [1]。

#### 主な機能と特徴：

- **一括 AI 分析とポートフォリオ分析：** 最大 1 万件の国内外の検索母集団に対して、生成 AI による一括処理が可能です。個別の特許だけでなく、競合他社や特定技術テーマの特許ポートフォリオ全体を対象に分析を行い、技術開発戦略や出願動向を瞬時に把握できます [1]。
- **マインドマップ出力：** 分析結果をマインドマップ形式で出力し、特許集合の全体像や技術の階層構造を直感的に理解できるように可視化します [1]。

- **キーワード抽出とトレンド分析**：特許公報から特徴的なキーワードを自動抽出し、技術トレンドや出願年次推移などの動向を効率的に収集・分析します [1]。

## 1.2 PatSnap Eureka R&D (PatSnap / 中央光学出版株式会社)

PatSnap Eureka は、研究開発部門向けに特化した AI イノベーションプラットフォームです。特許や論文などの信頼できる一次情報を学習した AI エージェントが、R&D のワークフローを支援します [2]。

主な機能と特徴：

- **技術予備調査エージェント (Scout)**：特定の技術領域における技術動向、競合調査、市場ポテンシャルなどを短時間で調査し、新しい開発機会のヒントとなる課題や技術分野を見つけるためのレポートを迅速に生成します [2]。
- **課題解決エージェント (Find Solution)**：TRIZ (発明的問題解決理論) を活用し、技術課題に対する解決策を提案します。対話を通じて問題を定義し、「ソリューションマインドマップ」を生成して潜在的な解決策を視覚的に整理します [2]。
- **実現可能性分析 (Feasibility Analysis)**：提案された技術ソリューションに対して、材料選定やコスト分析などの観点から実現可能性を評価し、実装ロードマップを提示します [2]。

## 1.3 LexisNexis PatentSight+ (LexisNexis)

PatentSight+は、特許の質 (価値) を評価する指標「Patent Asset Index」を用いた高度な特許分析ツールであり、近年 AI アシスタント機能が強化されています [3]。

主な機能と特徴：

- **AI による自動分類とクラスタリング**：AI と機械学習を用いて、特許を事業展開されている技術領域に自動的にマッピング・分類します。これにより、自社や競合他社の技術ポートフォリオを正確に把握できます [3]。
- **インサイトの自動生成**：分析したい内容を入力すると、AI が最適なチャートを生成し、ビッグデータからこれまで知られていなかった洞察 (インサイト) や IP ランドスケープの鳥瞰図を提供します [3]。

---

## 2. 企業における実践事例

これらの AI ツールや独自開発の生成 AI システムを活用し、実際の企業では「発散フェーズ（アイデア創出・用途探索）」と「収束フェーズ（証拠ベースの深掘り・評価）」を組み合わせたアプローチが実践されています。

### 2.1 旭化成株式会社：材料の新規用途探索における生成 AI 活用

旭化成は、過去のデータやノウハウなどの無形資産を活用し、材料の新規用途探索を自動化する取り組みを進めています [4]。

**実践アプローチ：** 同社は、専門人材と事業部が連携し、大量の特許や文献データから AI を用いて用途候補を自動抽出するシステムを開発しました。さらに、その中から特に有望な用途候補を抽出するために生成 AI を活用しています [4]。このアプローチにより、従来は人間が思いつかなかったような新しい材料の用途開拓を、特許データを根拠として効率的に行うことが可能になっています。

### 2.2 コニカミノルタ株式会社：知財 DX による技術棚卸とテーマ探索

コニカミノルタは、知財バリューチェーン全体を俯瞰した「攻めの知財 DX」を推進しており、生成 AI を活用した IP ランドスケープ業務の生産性向上を図っています [5]。

**実践アプローチ：** 同社は、生成 AI を活用して社内の技術資産を棚卸し、技術の可視化に取り組んでいます。出願前のアイデア創出から、先行技術探索、特許・事業情報を統合した市場分析まで、AI アシストに基づく発明創出を実践しています [5]。これにより、開発テーマの選定精度向上や技術の差別化を実現し、意思決定のスピードを飛躍的に向上させています。

## 2.3 三井化学株式会社：独自開発の生成 AI 特許チャットによる DX 加速

三井化学は、化学分野特有の専門性の高い業務ニーズ（実験結果の表の読み取りや化学構造式の理解など）に対応するため、独自開発の生成 AI チャットプラットフォームを導入しています [6]。

**実践アプローチ：** このプラットフォームには、膨大な特許情報から技術動向を調査する「特許分析機能」と、新規用途の発見を支援する「新規用途探索機能」が搭載されています。実証実験では、特許調査にかかる業務時間を 80%削減する効果が確認されており、新製品開発のアイデア創造や製品開発 DX を強力に推進しています [6]。

---

## 3. まとめ

「技術動向分析から技術開発テーマを提案する」という高度な要求に対し、Patentfield AIR や PatSnap Eureka のような特許特化型 AI ツールは、数千から数万件の特許データを一括処理し、マインドマップやクラスタリングによる可視化を通じて、直感的な理解と新たな洞察を提供します。

旭化成やコニカミノルタ、三井化学などの先進企業の事例が示すように、実務においては、AI を用いて広範なデータから新規用途やテーマ候補を提案させる「発散フェーズ」と、特許データベースを用いてその実現性や競合状況を深掘りする「収束フェーズ」を組み合わせるアプローチが極めて有効です。これにより、研究開発の初期段階における意思決定の質とスピードが劇的に向上し、企業のイノベーション創出を強力に後押ししています。

---

## References

- [1] Patentfield AIR | 生成 AI 調査・分析オプション. <https://product.patentfield.com/air> [2]  
AI は魔法の杖ではない？ 研究開発の技術動向調査を効率化する AI 活用術 | Patsnap

Eureka. <https://idea-triz.com/column/r-and-d-tech-scouting-ai> [3] PatentSight+の AI 分類 - LexisNexis Intellectual Property Solutions. <https://ps-support.lexisnexisip.com/hc/ja/articles/30684344515091-PatentSight-%E3%81%AEAI%E5%88%86%E9%A1%9E> [4] 生成 AI を新規用途探索の自動化や製造現場の技術伝承において活用開始 | 旭化成株式会社. <https://www.asahi-kasei.com/jp/news/2024/ze241209.html> [5] 知的財産 DX-2025 年度版 知的財産報告書 | コニカミノルタ. [https://www.konicaminolta.com/jp-ja/investors/ir\\_library/intellectual\\_property/2025/04.html](https://www.konicaminolta.com/jp-ja/investors/ir_library/intellectual_property/2025/04.html) [6] 三井化学、生成 AI を活用した特許チャットを開発 | ニュースリリース | 三井化学株式会社. [https://jp.mitsuichemicals.com/jp/release/2024/2024\\_1225/index.htm](https://jp.mitsuichemicals.com/jp/release/2024/2024_1225/index.htm)